

## 『神陵文庫』について

財団法人三高自昭会は、その事業の一つに「旧制高等学校教育の理念とその成果に関する調査・研究」を掲げています。これは新三高会館の開設を機に、新たに同窓生にスポットをあてて、旧制高等学校教育をうけた者の軌跡の一面を明らかにしようとするものです。

過去の三高の歴史については、未だ多数の価値ある史実・資料の解明がまたれているようですが、各「神陵史」の編纂によってまとめられてきています。

三高同窓による新しい記録や歴史をまとめて、後世に残していくことも亦意義あることであります。

爾来同窓生を講師とする月例の「会館のつどい」や「公開講演会」などを開催してまいりました。ここにこれらを収録する冊子を「神陵文庫」と名付け、昭和57年9月以降、日時の古いものから順に巻を追って刊行しております。

その後、各地での同窓生例会のレクチュアを収録しております。

# 『神陵文庫』第1輯（全7巻）

## 第一巻 目次

韓国の旅	林屋辰三郎
織物の話	川島 春雄
中国の将来	貝塚 茂樹
未来への挑戦	西堀栄三郎
日本の酒	土田 享
バイオテクノロジーの世界的情勢	福井 三郎
都をどりの舞台裏	阪倉 篤義
現代学生の生きがいについて	石井完一郎
当面の経済金融展望	島本 礼一
関西文化学術研究都市について	奥田 東
洪水と水害について	藤野 良幸

京都を中心とした都市計画について

人生往来手形

## 第二巻 目次

お茶の話	久田 和彦
気象が歴史の流れを変える時	中島暢太郎
わが学問について	今西 錦司
経営雑感	田鍋 健
弘法大師のご足跡	鳥越 正道
韓国問題を中心として	後宮 虎郎
人食い人種について	大橋 保夫
マンシヨンの話	西山 卯三
フランス語と日本語	多田道太郎

米谷 栄二

松尾 心空

## 第三巻 目次

フランス人	河盛 好蔵
甲賀忍者の系譜	望月 秀祐
土用のはなし	中村 清兄
明治末期〜大正初期の三高生活	岸田 幸雄
心臓を守る	河合 忠一
オランウータンの国	吉井 良三
シルクロードの十字路	護 雅夫
スワヒリの話	和崎 洋一
経営雑感	宇野 収
美わしき人間関係	竜村 基雄
古典芸能の話	菅 泰男
私の経営	佐伯 勇
吉田時代と今	湯浅 佑一
近畿の地震をどう考えるか	藤田 和夫
森と土と水	吉良 竜夫

第四巻 目次

数学はどのようにして出来たか	小堀 憲
青函トンネルを掘って	持田 豊
泰緬鉄道の話	二松 慶彦
最近に於ける東西関係	猪木 正道
崑崙の石	藤田 和夫
日本料理と食文化	佐竹 幸始
世界の中の日本経済	牧 冬彦

第五巻 目次

繊維よもやま話	谷口豊三郎
広島原爆後日譚	木村 毅一
二十一世紀のマイタウン東京	鈴木 俊一
科学と文学	小松 左京
新しい京都の歴史をひらく	林田悠紀夫
内外の経済潮流の変化と企業経営	磯田 一郎

あき罐条例その後

易とは何か

盆と正月

肺癌あれこれ

世界史を考え直す

○(本人の申し出により収録しておりません)

神陵文庫第24巻(合本IX)に収録

二・二六事件と私

リニア・モーターカー

第六巻 目次

北方領土	田畑茂二郎
和紙あれこれ	町田 誠之
漢字と固有名詞	池上 禎造
「日本の経営」私見	堀江 保蔵
日本語の中の漢語	日比野丈夫
シベリア抑留の話	河野 卓男
遺跡の保護と開発について	高野 浩二

谷口 知平

本田 濟

横田 健一

辻 周介

会田 雄次

井田 完二

天野 光三

田畑茂二郎

町田 誠之

池上 禎造

堀江 保蔵

日比野丈夫

河野 卓男

高野 浩二

どこまで重い元素があるか

農薬とは何か

飽食時代の栄養について

血液学の歴史と白血病の話

第七巻 目次

鉄道模型の遊び	穴戸 圭一
イギリスの田舎牧師の生活	白田 昭
数あれこれ	奥川光太郎
ビジョンとビジョネール	岸本 通夫
京都から見た日本の歴史	上横手雅敬
インパールの話	畠山 鐵次
古い青春謳歌	渡辺源太郎
技術革新と新素材	小泉 光恵
〔第六巻 追稿〕	
漢字と固有名詞(続)	池上 禎造

西 朋太

西内 光

佐川 一郎

脇坂 行一

白田 昭

奥川光太郎

岸本 通夫

上横手雅敬

畠山 鐵次

渡辺源太郎

小泉 光恵

池上 禎造

# 『神陵文庫』第2輯（全7巻）

## 第八巻 目次

胃癌の話	鈴江 懐
公証の話	伊原祐次郎
原子力発電について	飯田 孝三
老暮の楽しみ	森口 英知
京都国体の演出	
湯浅佑一・菅 泰男・近藤公一・岩田 正	
シバの女王の国	三木 一郎
異色の教育	米田貞一郎
コントラと内戦中のニカラグア紀行	
村田 信	

## 第九巻 目次

最近の眼科治療の進歩について	永田 誠
切手と鉄道	荒井 誠一
お芝居裏話	鈴木 宗夫
折田先生の間画像	板倉 創造
お盆に因んで	堀 定雄
彼の岸・此の岸	三神 栄昇
アイルランド詩人イエイツと日本	
党首は語る	大浦 幸男
アイルランド雑感	永末 英一
	高野武之助

## 第十巻 目次

仏数学の話	長尾 雅人
神戸経済雑感	大西 胖
文学と書の話	綾村 勝次
三高終焉のころ	久米 直之
ふたつの利休像について	山根 有三
これからの国際協力	大島 靖
三高基督教青年会と折田彦市	三谷 健次
三高終焉のころ（続）	久米 直之

## 第十一巻 目次

京都と本願寺	藤音 晃祐
小野組の盛衰	出口 勇蔵

落第、翌年は仮及第

和田 洋一

古代の道路と車

横田 健一

日本人と儒教

堀江 保蔵

技術裁判の思い出

村中 晃

海の 紫

高木 豊

宇宙飛行技術の進歩

前田 弘

死より生命に

橋本 實

### 第十二巻 目次

大阪湾ベイエリアの開発整備について

花岡 宗助

主食としての米のよさ

椎原 庸

無 題

小林 昭

立場と意見

河野 健二

都市計画よもやまばなし

北田純三郎

心配のたね

柴田 護

健やかな老い

武内 俊郎

かっぱ漫談

松村 恒

私の思い出

広田 可六

### 第十三巻 目次

化学兵器について

原田孝之助

ばらを語る

伊藤 克三

五十年前のフランス留学

加藤 美雄

蹴球部史作成の思い出

西山 嘉雄

幕末の漂流者

中川 努

濱田彦蔵の自伝を読んで

奥島 啓式

物づくり昨日、今日、明日

田淵 安一

絵の深さとは何か

西岡 諄

“人だま”は昆虫か

鷹津 正

心臓病の話

中村 秋甫

海のロマンを求めて

### 第十四巻 目次

脳血管障害と癌の話

景山 直樹

GHQ裏話

山本 義彦

元禄女性のファッションとヘアスタイル

高尾 一彦

新聞記者の思い出——京大俳句事件——

勝村 泰三

当世佛教談義 I 片岡 義道

最近の異常気象と地球温暖化 山元竜三郎

当世佛教談義 II 片岡 義道

ウルグアイ雑感 田中 寛康

阪神大震災の体験 I

渡辺寿男・木下正夫・下川栄一・吉田忠良・池田斎夫

阪神大震災の体験 II

西山嘉雄・藤岡伍郎・(司会者) 井垣隆敏

第十五卷 目次

戦争の詩歌

柴谷 篤弘

形の組合せいろいろ

桑垣 煥

レントゲン医学の暁

玉木 正男

原子力船『むつ』の生涯

下川 栄一

統計からみた世界及びアジア

盛 利貞

主要国の鉄鋼業と産業技術

短期大学の推移

折り紙の話

寺田 徳重

日本人の文字文化

河崎 定夫

はく(箔)の話

上妻 正大

昭和二十年の入学

小谷 寿

「琵琶湖周航の歌の作曲者」を尋ねて

森田 穂一

時局放談

柴田 護

第十六卷 目次 (合本Iに収録)

広島原爆とその後の一〇〇日

井街 譲

第十七卷 目次 (合本IIに収録)

金沢文庫の古声明を聴く

片岡 義道

第十八卷 目次 (合本IIIに収録)

三高と私

梅棹 忠夫

第十九卷 目次 (合本IVに収録)

ヨーロッパ紋章についての話

万永 昇

もう一つの舎密局

川崎 元雄

第二十卷 目次 (合本Vに収録)

私の学究生活——商法研究の回顧

上柳 克郎

京洛の風土に育まれて

竹内 直一

第二十一卷 目次 (台本VIに収録)

風と波とわれわれの青春

巽 友正

ペアリング鋼球について

松浦 菊男

八瀬童子の世界

家木 裕隆

第二十四卷 目次 (台本IXに収録)

世界史を考え直す

会田 雄次

二〇〇九年七月二二日

皆既日食観測日記

家木 裕隆

第二十二卷 目次 (台本VIIに収録)

世界三大旅行家たちの旅と私の旅

中西 亨

第二十五卷 目次 (台本Xに収録)

お天気よもやま話

山元龍三郎

物忘れと認知症

武内 敦郎

都市鉱山とレアメタル

西村 山治

三国志——曹操について

狩野 直禎

第二十三卷 目次 (台本VIIIに収録)

昔のガラス・今のガラス

作花 濟夫

親鸞の生涯と思想

佐々木英彰

私の野外工学

近藤 良夫

勤務医から見た分娩

近藤 一郎

和算の話

柴田 敬一